

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：たまプラーザぼんた保育園	種別：地域型保育事業
代表者氏名：高橋理恵	定員（利用人数）：12名(12名)
所在地：〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘1-23-5	
TEL：045-532-6687	
ホームページ：https://centerjp.com/tamaplaza/about	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成29年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社センター	
職員数	常勤職員： 4名 非常勤職員： 7名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士：7名 事務員：1名
	調理員：3名
施設・設備の概要	（居室数）保育室：1室 トイレ：3（子ども用2、大人用1） 調理室：1室 事務室：1室 休憩室：1室
	（設備等）園庭：なし

③理念・基本方針

当園の保育理念は3つ。第1に子ども第1主義。第2に保護者様が安心して預けられる園作り。第3に職員の一致団結・ONE TEAMです。

当園では子どもたちの安全を第1に考えて、怪我や事故を未然に防げるように安全管理や危機管理の体制を整えています。

当園の基本方針として、子どもたちが毎日通いたいと思うような笑顔溢れる園を目指しています。

まずは、保護者様応援団の旗を心に掲げて子育ての不安等にプロとして寄り添った対応がいつでも出来るように、保育の質の向上に努めています。次に、保育士や調理員が「あれがしたい！これをしてみたい！」「散歩や行事が楽しみ」等の向上心を持ち、働いている職員が楽しいと思えるような職場環境や就業体制を整えています。1人ひとりが自分の弱点を認めたと、1人で頑張るのではなく個々の弱点を個々の得意な分野でサポートし合える職員のチームワークを大切にしています。

④施設・事業所の特徴的な取組

当園の特徴は5つです。第1に、静と動のメリハリある保育。第2に、午前・午後の散歩にて楽しみながら交通ルールや手繋ぎの大切さが身につけられる保育。第3に、自我の芽生えや自身のやる気を大切にする保育。第4に、遊びの中で自然と生活力が身につく保育。第5に年間を通した多年齢交流や地域交流です。

当園では戸外遊びからは得られない「椅子に座って集中出来る時間」も大切にしている為、朝の自由遊びを時間で区切り、パズルやひも通しなど手先を使った遊びを取り入れています。更に、個々の毎日成長する「発達の最近接領域」を把握した上で、本人の力

で成し遂げた達成感を自信に繋げられる声掛けを意識しています。次への目標に意欲的になれるように3倍褒めて、子どもの更なる成長を伸ばしていきたい思いと共に、私たちとの信頼関係も築いています。

保育環境においては、遊ぶと同時にいつの間にか生活に必要なスキルが身につく環境を整えています。そして、心も体も元気な人、やる時はやる・聞く時は聞くが出来る人、人や物への痛みが分かる人、興味・関心好奇心旺盛な人への育成を目指しています。また、多年齢交流においては公園で小学生とソーラン節を踊り、七夕には近隣の中学校から笹を頂き、ハロウィンでは連携施設との交流を行っています。地域交流では、毎月行っている避難訓練の中で本物の警察官や消防士と触れ合う機会を設けています。交流において感染症対策も万全に行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年7月8日（契約日）～ 令和4年3月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ - 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) 行事の達成を成長目標として、やり遂げた自信を成長につなげています
子どもがどうしたいか？と常に考える、子どもの気持ち重視の環境を作っています。園の保育理念である「子ども第一主義」に沿った保育を実践しています。職員は大人目線ではなく、常に子ども側からの視点で物事を考えるようにしています。前向きな言葉をかけ、子ども自らが自分でできることを見守り、待つ保育をしています。行事の意味も理解してもらい、楽しんで目標が達成できるようにしています。子どもの意思表示をしっかりと受け止めることにより、できることが増え、運動会などで成果も確認しています。乳児でも子どもが自信を感じ、生きる力が育まれてきています。

2) 楽しみながら食べられる食事提供をしています。

子どもが食事を楽しむことができるように工夫をしています。おやつでは子ども自身がカップの色を選べるようにしたり、食材や切り方にも工夫をして楽しめるようにしています。子どもが苦手な食材でも食べやすく刻んだり、配膳順を変えるなど工夫しています。最初から目標量を提供して、せかしたり無理強いすることを避け、最初に目標の8割の量を提供し、おかわりにより残りを提供するようにしています。完食できた喜びは子どもの自信にも繋がっています。子どもたちは「おかわり」という言葉が好きで、楽しみながら食事ができています。開設から残食は一度もありません。毎月の身体測定結果から、おかわり量を変えるようにして食事提供をしています。

3) 全員参加で考える保育を実践しています

園長のリーダーシップのもとに、職員が子どもにとっての利益を考え、意見を出し合い取り組んでいます。職員一人ひとりが、保育に対する考えを話し合える環境を日常的に作っています。0、1、2歳と成長の過程を考える職員配置を行い、職員が考えるようにしています。非常勤職員も外部研修を受講する機会を設け、さらに園内研修で職員の共通認識を深めるよう取り組んでいます。皆で話し合い、職員がONE・TEAMとして、保育目標の達成に取り組んでいます。

◇改善を求められる点

1) 会議等による組織的改善への取組

小規模保育園で職員の人数が少ないこともありますが、園長の判断で随時に打ち合わせを行い、保育状況の確認・徹底をしています。園長がリーダーシップを発揮しつつ一人で多くのことを抱えている状況です。園長は事務職員と連携して効率化を進めていますが、保育の改善においても職員への分担を検討することが期待されます。改善活動にプロジェクトや担当を設けて職員に任せて育成につなげつつ、会議も定期的な開催を実施して、改善活動を組織的に行うことが期待されます。

2) 中期計画や事業計画の文書化

ホームページで「保育理念」「保育方針」や保育活動状況を明確にしています。さらに、「3つの基本方針」「年齢別保育の考え方」を示して、ぼんた保育園の自慢として、5つの方向を明示しています。しかしこれらの計画が中期計画書や事業計画書としてまとめられておらず、共有化や進捗確認が十分ではありません。日々変わる環境変化に対応するために目標を明示して変更を加える必要があります。職員全員が目標等を共有して向上するために、計画の文書による明確化が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受けるにあたり、時間や仕事内容が違う常勤・非常勤・給食職員・事務職員とシャッフルグループワークを重ねる事で、自分たちの働いている園についてじっくり話せる貴重な機会ができました。

第三者評価は、職員・保護者アンケートや、職員全体で評価項目に沿って話し合った内容を、保育する側ではなく、保護者の立場でもなく、第三者という全く畑の違った一般の方の公平な目で実際の保育も見えていただき、活字としてまとめていただくものでした。この作業は、まとめる側にも・受ける私たちにとっても、とても繊細で多くの時間と労力を用いるものでした。しかし、実践してきた保育が明文化される事で、開園からおこなってきた子ども第一主義という信念の保育に、自信を持つ事ができました。そして本園を客観的に分析した事で伸びしろや今後の課題がはっきり見えました。

この評価結果は、開園から5年間の保育の追跡をまとめていただいた、職員一同の集大成となりました。これを本園の自伝「第一章」とし、この経験で得た気づきや伸びしろを次の「第二章」では、少しでも多くクリアしていけるようこの「ONE TEAM」で取り組んでいきたいと思えます。

今回の第三者評価にご協力いただきました皆様に、感謝を申し上げます。
ありがとうございました。

たまプラーザぼんた保育園 園長 高橋 理恵

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり